

使用上の注意改訂のお知らせ

2021年2月

製造販売元  **日新製薬株式会社**
山形県天童市清池東二丁目3番1号

消化性潰瘍・胃炎治療剤

デュクアノン[®] 懸濁用配合顆粒
乾燥水酸化アルミニウムゲル
水酸化マグネシウム配合剤

デュクアノン[®] 配合内用液
水酸化アルミニウム・ゲル
水酸化マグネシウム配合剤

この度、標記製品の「使用上の注意」を下記のとおり改訂致しますのでご案内申し上げます。
今後のご使用に際しましては下記の内容をご参照くださいますようお願い申し上げます。

改訂内容 (部：追記)

改訂後	改訂前																																	
<p>【使用上の注意】 2. 相互作用 併用注意（併用に注意すること） 現行のとおり</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 20%;">薬剤名等</th> <th style="width: 40%;">臨床症状・措置方法</th> <th style="width: 40%;">機序・危険因子</th> </tr> <tr> <td colspan="3" style="text-align: center;">(略)</td> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ドルテグラビルナトリウム</td> <td>現行のとおり</td> <td>現行のとおり</td> </tr> <tr> <td>ダサチニブ</td> <td>本剤との同時投与は避けること。本剤の投与が必要な場合には、ダサチニブ投与の少なくとも2時間前又は2時間後に投与すること。</td> <td>ダサチニブの吸収が抑制され、血中濃度が低下する可能性がある。</td> </tr> <tr> <td>ガバペンチン</td> <td>同時に投与することにより、ガバペンチンの最高血漿中濃度(C_{max})が17%及び血漿中濃度-時間曲線下面積(AUC)が20%低下した。本剤の投与後少なくとも2時間以降にガバペンチンを服用することが望ましい。</td> <td>機序不明</td> </tr> <tr> <td>エルトロンボパグ オラミン</td> <td>同時に服用するとエルトロンボパグ オラミンの吸収が著しく妨げられることがあるので、投与前4時間及び後2時間は本剤の投与を避けること。</td> <td>錯体を形成する。</td> </tr> <tr> <td>ラルテグラビル</td> <td>ラルテグラビル投与前後6時間以内に本剤を併用投与した場合、ラルテグラビルの血漿中濃度が低下する。</td> <td>キレート形成によるラルテグラビルの吸収抑制等がおこるおそれがある。</td> </tr> <tr> <td>リオシグアト</td> <td>本剤投与はリオシグアト投与後1時間以上経過してからとすること。</td> <td>消化管内pHの上昇によりリオシグアトのバイオアベイラビリティが低下する。</td> </tr> </tbody> </table>	薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子	(略)			ドルテグラビルナトリウム	現行のとおり	現行のとおり	ダサチニブ	本剤との同時投与は避けること。本剤の投与が必要な場合には、ダサチニブ投与の少なくとも2時間前又は2時間後に投与すること。	ダサチニブの吸収が抑制され、血中濃度が低下する可能性がある。	ガバペンチン	同時に投与することにより、ガバペンチンの最高血漿中濃度(C _{max})が17%及び血漿中濃度-時間曲線下面積(AUC)が20%低下した。本剤の投与後少なくとも2時間以降にガバペンチンを服用することが望ましい。	機序不明	エルトロンボパグ オラミン	同時に服用するとエルトロンボパグ オラミンの吸収が著しく妨げられることがあるので、投与前4時間及び後2時間は本剤の投与を避けること。	錯体を形成する。	ラルテグラビル	ラルテグラビル投与前後6時間以内に本剤を併用投与した場合、ラルテグラビルの血漿中濃度が低下する。	キレート形成によるラルテグラビルの吸収抑制等がおこるおそれがある。	リオシグアト	本剤投与はリオシグアト投与後1時間以上経過してからとすること。	消化管内pHの上昇によりリオシグアトのバイオアベイラビリティが低下する。	<p>【使用上の注意】 2. 相互作用 併用注意（併用に注意すること） 省略</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 20%;">薬剤名等</th> <th style="width: 40%;">臨床症状・措置方法</th> <th style="width: 40%;">機序・危険因子</th> </tr> <tr> <td colspan="3" style="text-align: center;">(略)</td> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ドルテグラビルナトリウム</td> <td>省略</td> <td>省略</td> </tr> </tbody> </table>	薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子	(略)			ドルテグラビルナトリウム	省略	省略
薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子																																
(略)																																		
ドルテグラビルナトリウム	現行のとおり	現行のとおり																																
ダサチニブ	本剤との同時投与は避けること。本剤の投与が必要な場合には、ダサチニブ投与の少なくとも2時間前又は2時間後に投与すること。	ダサチニブの吸収が抑制され、血中濃度が低下する可能性がある。																																
ガバペンチン	同時に投与することにより、ガバペンチンの最高血漿中濃度(C _{max})が17%及び血漿中濃度-時間曲線下面積(AUC)が20%低下した。本剤の投与後少なくとも2時間以降にガバペンチンを服用することが望ましい。	機序不明																																
エルトロンボパグ オラミン	同時に服用するとエルトロンボパグ オラミンの吸収が著しく妨げられることがあるので、投与前4時間及び後2時間は本剤の投与を避けること。	錯体を形成する。																																
ラルテグラビル	ラルテグラビル投与前後6時間以内に本剤を併用投与した場合、ラルテグラビルの血漿中濃度が低下する。	キレート形成によるラルテグラビルの吸収抑制等がおこるおそれがある。																																
リオシグアト	本剤投与はリオシグアト投与後1時間以上経過してからとすること。	消化管内pHの上昇によりリオシグアトのバイオアベイラビリティが低下する。																																
薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子																																
(略)																																		
ドルテグラビルナトリウム	省略	省略																																

改訂理由

◆自主改訂

今回の改訂内容は、日本製薬団体連合会発行 医薬品安全対策情報 (DSU No.297 2021年3月) に掲載される予定です。
最新の医薬品添付文書情報は、PMDA HP「医薬品に関する情報」(<https://www.pmda.go.jp/safety/info-services/drugs/0001.html>)
および弊社HP (<https://www.yg-nissin.co.jp/>) に掲載致します。